

県内ものづくり企業の創造的復興を支援する製品信頼性評価体制の構築

(H29 年度東日本大震災復興推進基金活用事業)

Establishment of product reliability evaluation system to support manufacturing industry in region affected by disaster

村井 博、久保 幸範

八戸市を中心とした県南地方は東北有数の工業地帯であり、機械製造、電気電子機器製造等の企業が数多く立地しているが、多くの企業が東日本大震災の影響により、製品開発の遅れを余儀なくされ、経営基盤の維持強化に苦慮している。県内企業においては、製品開発サイクルの短縮化、製品化コストの低減など、競争力がある製品開発を活発化させることが急務となっている。

一方で、多くの電気機器等の製品化には、IEC, JIS 等の各種規格に定められる基準に関する「各種信頼性評価」が必須となっているが、本県には対応できる施設がない状況である。そのため、県内企業の多くは県外の試験研究機関等に出向き、必要な信頼性評価を実施している。他県企業に比べ時間と費用をかけており、これが製品開発の遅延や製品の高コスト化に繋がっている。

これらの状況を改善するため、本事業は「各種信頼性評価」の実施体制を八戸地域研究所に構築し、被災地企業を中心とした県内企業の製品開発を支援することにより、製品の品質向上、低コスト化に繋げ競争力の強化による県内産業の真の復興支援を実現するものである。

平成 29 年度は電子機器の電磁感受性を評価するための機器として、サージ試験用シールドルームを含む EMS 試験システムを導入し、平成 30 年 4 月から機器貸出を開始した。これにより、電磁妨害測定(EMI)と電磁感受性(EMS)の両方の指標を評価できる体制が整い、EMC 対策室として運用を開始した。さらに、(株)八戸インテリジェントプラザと共催で人材育成セミナー（機器利用説明会）を実施し、県内企業技術者へ向けて、信頼性評価の啓蒙と信頼性評価に必要な専門的知識の講義を行った。



導入したサージ試験用シールドルーム



機器利用説明会の実施状況